

かんどう  
巻頭インタビュー



訪問看護ってどんなところ？

昨今よく目にするようになった訪問看護ステーション。「どのように」、「どのような」訪問看護と連携をすればいいのか。また、そもそも、地域で障害者を支援するにあたって、訪問看護の役割とは何なのか。ACT-Jではどのような活動をしているのか。今回そういったお話をお伺いさせていただくためにACT-Jへ訪問して来ました。



右からしつぽふあーれ院長の伊藤順一郎先生、ACT-J管理者の斉藤和彦さん

特定非営利活動法人  
リカバリーサポートセンターACTIPS  
訪問看護ステーション ACT-J

管理者 さいとう かず ひこ  
斉藤 和彦

医療法人社団 こころるら  
メンタルヘルス診療所 しつぽふあーれ

院長 いとう じゅん いち ろう  
伊藤 順一郎

所在地：千葉県市川市菅野5-11-16  
TEL：047-712-5625



診療所と訪問看護ステーションの外観です。近くには大きな病院やスーパーがあります。

精神科訪問看護ステーションACT-Jを利用する対象者はどのような方ですか？

ACT (Assessive Community Treatment) とは、ACT-JのACTとは、もと、アメリカを発祥の地とする、多職種アウトリーチチームによる包括型の地域生活支援の方法論を表します。医療支援・生活支援にとどまらず、やることは何でも試してみる「まると支援」が、その志としてあります。具体的には、一人の患者さんに複数のスタッフが日常的にかかわる、個人別の支援チーム体制をとっています。こうしたことで、日常生活が不安定な人に対して、密度の濃い、安定した支援を送り届けることができるのです。(ホームページより抜粋)

ACT-Jの特徴は？

多職種 (精神科医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士など) によるチームアプローチを行っています。

職種で役割が限られた動きになると捉えられるかもしれませんが、言い換えると役割をオーバーラップさせた超職種チームと言えます。看護師が看護師以上の役割をしますし、作業療法士が作業療法士以上の役割をしています。チーム全員が相談支援専門員の資格を有しケースワークができるので、人としての役割が基本にあります。その方の望む生活をどのように実現

市川市にある当ステーションから車で片道30分以内が訪問エリアです。

①入退院を繰り返す方、②退院できない方、③退院しても外来にこない方、④医療以外に福祉的な支援が必要な方、に対して支援を行っています。

現在の利用者は120名程。そのうち精神的に重度の方は30名程でケースワークが必要な方々です。

20才までの若年者は20名程関わっています。児童精神科訪問看護として、幼少期から担当することの必要性をとても感じています。

制度の枠組みを超えた寄り添い支援とは？

訪問看護は自宅の中で活動が原則ですが、利用者の日々の生活に寄り添うためには家から外に出て本人が望むやりたいことのお手伝いをする必要も必要になります。世の中で一般的な事柄を使えるようにする支援が大事です。自宅がスタートや終点でない支援は診療収入にはならないという課題はありますが、チームで相談しながら治療的・医療的な範囲の外・同行支援は行っています。

また、他者との関係性に困難を抱え、社会生活に馴染めず「生きることがつらい」と感じている人の寄り添いについては



しつぽふあーれの由来は精神病院をなくしたイタリヤの言葉 Si Può Fare (やればできるさ)



診療所の中はあったかい雰囲気です。どこかほっとする空間になっています。

その方を信じ一緒に行動をしたり、「生きづらさに寄り添う」ことを行っています。私達は、その方に信じてもらえるように誠実に向き合い、優しく徳のある、道徳的な支援が常に求められていると感じています。支援の第一歩目は利用者さんとの信頼関係の構築です。関係性が進む利用者さんが信じられる人ができたとき、ほっとしたり、嬉しかったりすると思うのです。

## 最近訪問看護事業所が増えてきています

15年前は市川市において精神障害を持つ方の訪問を行う看護ステーションはただけだったんです。それが今では精神の訪問看護が市川市でも7、8か所と増えてきました。

あるステーションが、内科の

疾患で高齢者の看取りまでしたところ、ひきこもりで発達障害のお孫さんがいたことが発覚し、「顔を知っている」ということでそのお孫さんに対して引き続き訪問をしていました。お孫さんと一緒に買い物に行き、お金の支払い方を教え学ぶ場面など作っていたそうです。その看護師さんは手探りで関わっていたようですが良い事例ですね。

そうかと思うと精神科病院の様に、管理的に自宅に訪問しているステーションもあります。

「看護業務の外側はやりません」というステーションもあるでしょう。過剰な訪問件数をノルマにしているというステーションの話も聞いたことがあります。他には、訪問件数にインセンティブを入れているステーションがあります。精神障害の方の訪問看護には合っていないように感じています。私達は一日4、6件が精一杯です。インセンティブはありません。

## GHに住んでいる人への訪問はありますか？

10名程の方に訪問しています。

定期的に集まって会議を行う

ほかに、利用者の病状が不安定な際にはGH管理者・本人・ACTメンバーでケア会議を行い、支援者側から本人の支援内容について確認をしながらより良い支援を提供できるよう検討しています。

GH管理者の中には不安定な精神状態になった入居者を理解できないために、対応に苦慮している人がいます。私達ACTメンバーに対して、管理者からこうした方々に対して「直ぐに入院させたい」と相談されることがあります。暴力を起こしたことを「症状」と間違った理解をされることもありますので、正しい情報提供をしています。実際には人を含む環境を調整することで、上手くいくことがあります。例外はありますが、入院治療が必要な場合は少ないです。ただし、GH管理者も困っているのは承知しているので、ではどうすれば良いのかをGH管理者と一緒に考える姿勢です。

ワンルームタイプのGHを訪問するときは、担当者や責任者には出会わないので本人の自宅に行く感覚です。これで良いのかなと時々思いますよ。

## 理想を教えてください

精神障害の方を治療という名のもとに病院に閉じ込めている現状があります。過激ですが、収容列島日本を無くすことです。そして、家族で支えられない時に地域社会で支えられるしくみがあることが理想です。地域の皆さんの理解ある繋がりが持てることで、普通のアパートで暮らすことができればいいと思います。

## GHに望むことは？

\* いずれアパートで生活できるように、GHでは社会的ルールを育てて貰える場所であってほしい。

\* コミュニケーションがとれるGHであってほしい。

\* 管理者の考え方次第だが、入居者の調子が悪くても安心して生活できるGHであってほしい。



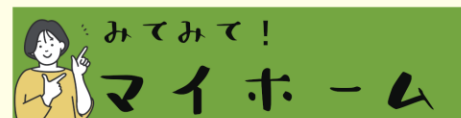
こちらは関連するパンフレットや情報誌が置かれているコーナーです。

特定非営利活動法人  
リカバリーサポートセンター  
ACTIPS  
訪問看護ステーション ACT-J  
HPはこちら⇒



医療法人社団 こころろら  
メンタルヘルス診療所  
しっぽふぁーれ HPはこちら





有限会社 Nikko  
グループホームクラブハウス白井

代表取締役 **佐々木 孝雄**  
統括マネージャー・  
看護師 **佐々木 美穂子**

住所：千葉県白井市西白井1-9-27  
電話：047-402-3247  
HP：https://club-house-2021.com/

## クラブハウス白井とは

有限会社Nikkoさんが運営する『クラブハウス白井』

(以下GH)は、「自分の思う道を自分の歩幅で歩きたいという気持ちに寄り添っていく」「常識に当てはめた支援ではなく、利用者の思う道を進むことを応援したい」という理念のもと、主に精神障害で生活のしづらさを抱えている方を対象に、令和5年4月に白井市にオープンしました。同社は訪問看護(以下



今回お話を伺った代表取締役の佐々木孝雄さん(右)と統括マネージャーの佐々木美穂子さん(左)



クラブハウス白井の外観。同じ建物に訪問看護ステーションと相談支援事業所があります。

## アピールポイントとは？

GHを行う上でも各々のプライバシーを守りたいと考

訪問ステーションや相談支援事業所も運営しており、お一人おひとりに寄り添った支援の提供を行っています。  
GHの開設を考えたきっかけは、当時訪着を利用されていた方との関わりでした。訪問当初はコミュニケーションを取ることも難しく、支援やGHに対しても否定的な発言が多かったのですが、寄り添い支援を続けていくうちに「GHを作ってくれるなら利用したい!」との意向を受け、社内検討を進め開設の運びとなりました。何に困っているのか・何を提供出来るのかを常にスタッフ全体で共有することで、今では楽しくおしゃべり出来るような関係作りが出来ています。

え、ワンルームタイプにすることを決めました。自分だけのトイレやお風呂を使えることで不安が解消できたり、症状がすぐれない時には刺激の少ない状況で過ごしていただけています。同じ建物内に訪着ステーションがあるのですが、訪着のスタッフは各々のお部屋へ来る人と皆さん認識されていて、ステーションへ押し掛けることはないそうです。夜間は宿直職員を配置しております。必要時は宿直のスタッフが看護師と連絡を取り合って適切な対応をしています。

## 一緒に考える支援

朝起きれず日中活動への参加が難しい方がいました。原因を探ると、遅くまでスマホを操作し朝起きれない↓朝食を食べない↓日中活動へ行けないとなっていたことがわかりました。スマホを取り上げることは簡単で



白を基調とした共有スペースやプライベートが保たれた居室。

## 自慢の食事

GHの特徴は訪着や相談支援事業所との連携だけではありません。管理栄養士がいるので、バランスの取れた食事の提供を行い、毎日の食事を通して入居者の健康を守ります。また、食事の時間が有意義になる、入居者同士の共通の話題になるように世話人が手作りの『食卓チャラシ』を作りお渡ししています。食事の話から健康に関すること、世界遺産の紹介など様々です。詳しくはインスタグラムで公開していますので是非チェックしてみてください。



美味しい食事のほかに『食卓チャラシ』を作成しお配りしています。

有限会社Nikko  
ホームページはこちら⇒



クラブハウス白井  
Instagramはこちら⇒





各圏域を奔走するGH等支援  
ワーカーを紹介するコーナー

野田圏域 野田圏域  
坂本 関  
祐子 広太

社会福祉法人 はーとふる

坂本 祐子

野田で生まれ、交流学級や福祉施設との



行事が当たり前の環境で育ってきました。大学時代は余

暇支援の活動サークルや横浜のグループホームなどで関わらせていただき、その後入所施設や生活介護などで皆さんと一緒に過ごしていました。

今回ワーカーになり、今まで以上に「地域」を感じて仕事をしています。グループホームの皆さんや他圏域のワーカーなど多くの方とお会いする機会が増え、学びをいただいている毎日です。日中活動の場であれ、生活の場であれ、余暇支援の場であれ、どこであつても皆さんの

地域生活を支える1つの場所、その1人として連携し合いたいと思っています。  
まずは地域作りを野田から少しずつできるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

社会福祉法人 はーとふる

NOMAD 関 広太

福祉の業界には20歳の時から働きはじめ、約16年携わっております。福祉の世界に足を踏み入れたきっかけは、自分の専門学校に障がい者の方が販売会に来た際、ボランティアで関わらせて頂いたのですが、とても綺麗な心を持っている方達だ！と感動したことから始まりました。入職時は生活介護事業に配属され、就労移行、共同生活援助と経験させて頂きました。

今年度からグループホーム等支援ワーカーに配属されたのですが、私は「繋がり」を大事にしていきたいと思っております。先輩ワーカーに相談しながら、皆様と色々な形で繋がっていきたく思います。どうぞよろしくお願いします。



今年度からグループホーム等支援ワーカーに配属されたのですが、私は「繋がり」を大事にしていきたいと思っております。先輩ワーカーに相談しながら、皆様と色々な形で繋がっていきたく思います。どうぞよろしくお願いします。

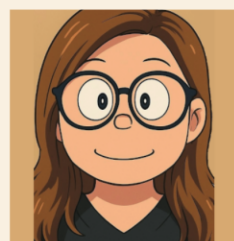
NEWS

柏市でもグループホームを支援する制度が始まりました

柏市くらしコーディネーター

社会福祉法人 高柳福祉会

若松 愛子



令和6年10月1日より柏市の新規事業として、柏市

地域移行・生活相談支援コーディネーター事業が実施となり、通称・柏市くらしコーディネーターとなりました若松です。

これまでは相談支援専門員を専従していましたが、入職当初は日中活動の支援員とグループホーム（以下GH）を担当し、

入居者様が安心して暮らせるよう出来ることをしようとの意気込みはありつつもGHの支援員としての支援力は全く追いついてない状態でした。そのようななか、未熟な私に『GHの役割・GHの支援とは何か』を助言くださり、私の気持ちを救ってくれたのは千葉県障害者GH等支援ワーカーの方々でした。当時と変わらずGH等支援ワーカーの方々にあたたかくご指導いただきながら、GH世話人・生活支援員・サービス管理責任者、相談支援専門員の経験を活

今号の題字



横芝光町 こうめホーム  
市原秋江さん（左）三橋和子さん（右）

こうめホームで食器洗い・食器拭きなどの役割分担をしています。みんなで誕生日をお祝いして楽しくすごしています。

お知らせ



かし、連携と縁と感謝を大事に地道に取り組んでいきます。

千葉県障害者グループホーム等支援事業が20年を迎えました。「誰もがありのままにそのらしく地域で暮らす」基本理念の下、20年の間に、GHの目的や役割が変化しているのではないかと10年後のGHの理想とは何かこれからグループホームを考えるとして、2026年1月23日に「第17回千葉県障害者グループホーム大会」を行います。（詳しくは下記ホームページをご覧ください）



千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

暮らしを拓く  
57号

発行 / 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会事務局

TEL / 043-308-6325

MAIL / info@chiba-hw.org

発行日 / 令和7年（2025年）11月22日

編集 / 連絡協議会広報班